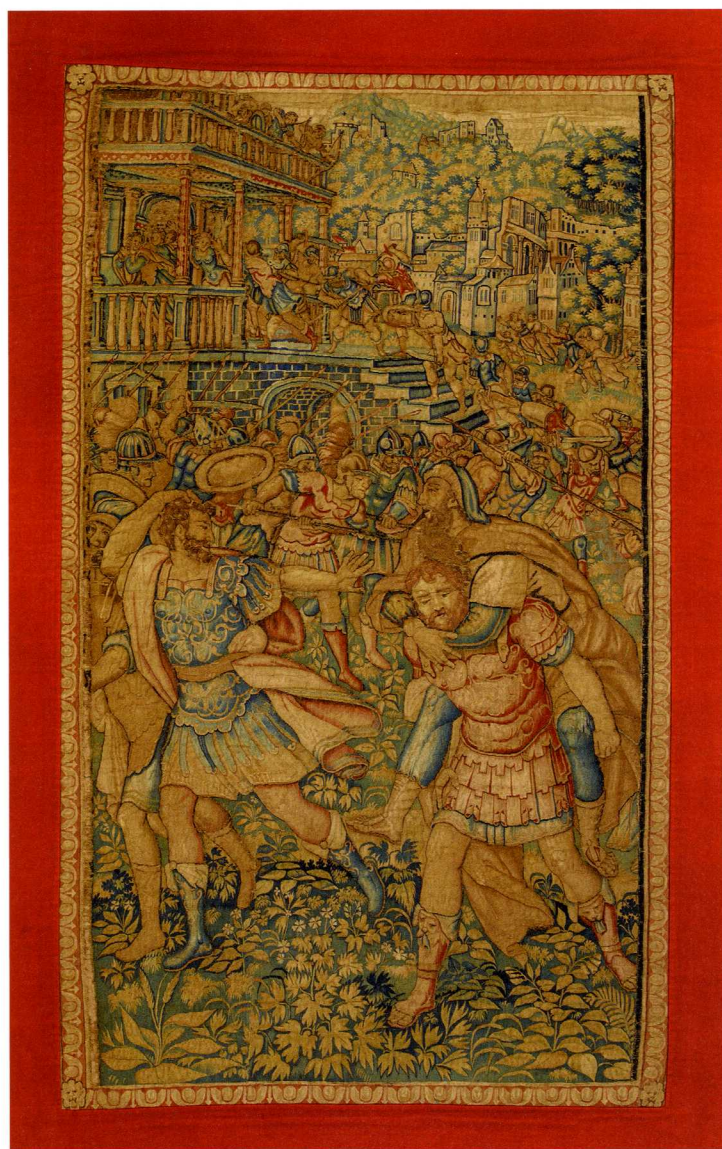


P1~3	企画展 大津歴博の玉手箱
P4	ミニ企画展 大津の古文書9 大津算盤をつくった人々
P5	ミニ企画展 モダンと伝統のはざま 柴田晩葉と早苗会
P6	収蔵品紹介 復元された4基の鷗尾

大津市歴史博物館開館25周年記念企画展

大津歴博の玉手箱

平成28年3月5日(土)~4月17日(日)



この作品は、おおつまつりひきやま大津祭曳山のうち、げつきやうでんぜん月宮殿山（上京町）で使われていた見送幕です。16世紀ベルギーのブリュッセルで織られた「かんらくすトロイア陥落図」の一部を仕立て直したもので、重要文化財に指定されています。毎年秋の大津を彩る大津祭は、13基の華麗な曳山が旧大津町を巡行し、人々の目を楽ませます。近世、大津町人の豊かな文化が生み出した、大津を代表する祭礼といえるでしょう。

開館25周年記念企画展

大津歴博の玉手箱

平成28年3月5日(土)～4月17日(日)

大津市歴史博物館は、平成27年(2015)10月28日に開館25周年を迎えました。年度初めには、開館25周年記念企画として、れきはく講座で学芸員リレー講座をおこない、それぞれの担当分野について詳しくお話ししました。また、夏期企画展では「広重の旅 浮世絵・近江・街道」として大津・近江を描いた歌川広重作品を、秋期企画展では「比叡山一みほとけの山一」として比叡山の仏教文化を紹介しました。

そして、本年度最後の企画展では、歴博が収蔵する様々な名品にスポットを当てます。当館は、平成2年(1990)10月28日に開館以来、多くの方々のご協力により、大津の歴史を物語る多種多様な文化財を収集してきました。そこで本展では、これまで収集してきた数多くの文化財の中から、各学芸員が作品を選びすぎり、様々な情報を用いてより詳細に、よりわかりやすく解説していきます。

展示構成は以下の通りです。

- 第1章 大津・おおつ・OTSU
大津絵・大津祭・大津事件など「大津」を冠する資料を集めます。
- 第2章 鴟尾しび—古代の屋根飾り—
山ノ神遺跡4号窯跡をはじめ、大津市内で出土した鴟尾を紹介します。
- 第3章 大津 マチの風景 いまむかし
大津百町の風景の変遷を絵図や古写真などで探ります。
- 第4章 流転する古文書一蔵に納めること—
山門公人の古文書群を紹介しながら、古文書の伝来経緯や調査、保管の意味をお伝えします。
- 第5章 お地藏さまを鑑賞する
さまざまな形をしたお地藏さまを体感して下さい。
- 第6章 両界曼荼羅りょうかいまんだらの世界
両界曼荼羅には何が描かれているのか細かく解説します。
- 第7章 タイムトラベル 江戸時代の近江八景
雅な公家趣味の名所からリアルな旅の観光地へと変容していった近江八景の歴史を旅案内します。
- 第8章 大津の船大工道具
琵琶湖独特の木造和船を製作する道具等を展示します。
- 第9章 近江八景エハガキ探訪
八景のうつり変わりを写真から徹底的に読み解きます。
- 第10章 大津歴博25年間のあゆみ
年表や写真パネルで、これまでのあゆみをたどります。

大津市は、南北に伸びる特徴的な地形から、地域ごとに特色ある文化が生まれ出され、様々な文化財が今も大切に受け継がれています。それら1つ1つが膨大な情報を有しており、調査研究によって様々な事柄を読み解くことができます。本展では、文化財の奥深さとともに、大津の歴史と文化を様々な視点から紹介します。



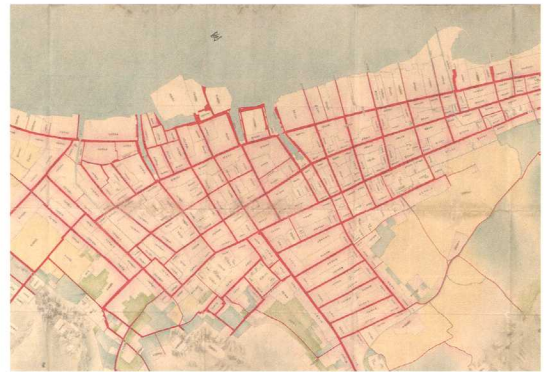
重要文化財 ^{しび} 鷗尾 (山ノ神遺跡)
白鳳時代 (7世紀後半) 大津市蔵



重要文化財 地藏菩薩坐像
鎌倉時代 (13世紀前半) 下阪本・真光寺蔵



さんもんく にんもんじょ
山門公人文書 江戸時代 本館蔵



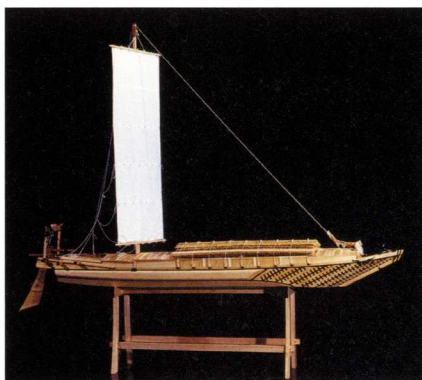
滋賀郡大津町全図 乾
明治7年 (1874) 頃 本館蔵



りょうがいまん だ り ま たいざうかい
両界曼荼羅函 (胎藏界)
南北朝時代 (14世紀後半) 本館蔵



近江八景画卷 (部分) 桃田柳栄筆
貞享元年 (1684) 頃 本館蔵



丸子船 (丸船) 模型
故松井三四郎氏制作 本館蔵



近江八景絵葉書 ^{かた たうきみどう} 堅田浮御堂 大正時代 本館蔵

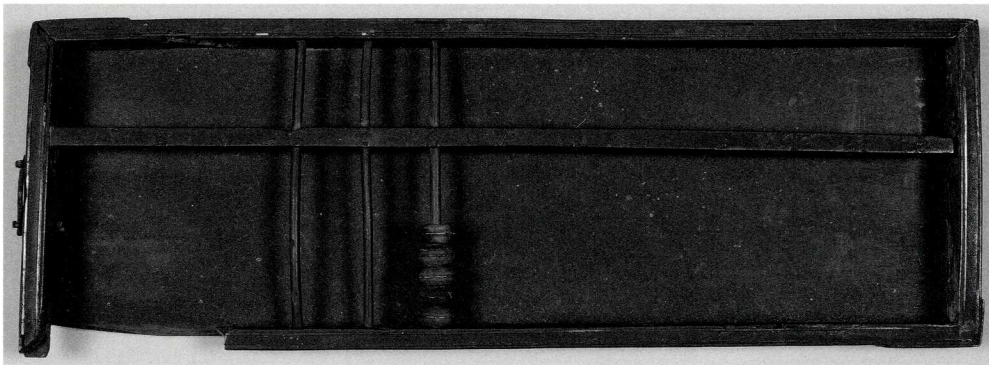
大津の古文書9 大津算盤をつくった人々

会期：1月19日(火)～3月6日(日)

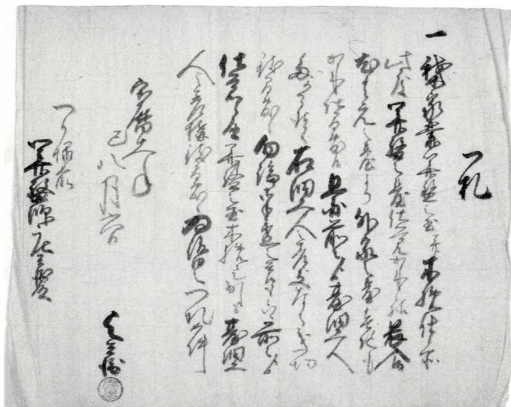
慶長17年(1612)、大津一里塚町(現大谷町)に居住していた片岡庄兵衛は、長崎奉行となった長谷川藤広に同行して長崎で中国・明国の算盤を手に入れ、帰郷後に改良を加えて新たな算盤を作りました。それが大津算盤です。大津算盤は、裏小板をはめ込み、釘や金具を使わず、弾きやすいように玉を菱形に削るなど、高度な技術・製法をもって製造されました。また、その需要は、算盤師片岡家が幕府勘定方の御用を務めるなどして増加していき、一里塚町周辺には片岡家だけでなく多くの算盤屋が立ち並ぶようになりました。

現在、大津算盤は、日本の算盤の始まりとしてその歴史が知られるようになりましたが、算盤製造技術の相伝や株仲間の実態など、算盤製造に携わった職人の歴史はあまり知られてはいません。

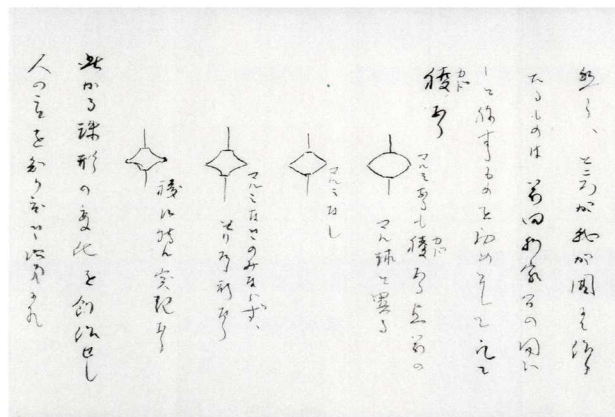
本展では、算盤師片岡に残る古文書をひも解きながら、あわせて大津算盤の実物関係資料も多数ご覧いただき、江戸時代から明治時代の天津算盤を作った職人の歴史をご紹介します。



慶長17年に片岡庄兵衛が入手したという明国の算盤 個人蔵
大津算盤と違って玉が丸いのが特徴



算盤台細工につき請状
宝暦11年(1761) 個人蔵
算盤台製作を誓約した文書



文部省国費局内安東寿郎書簡
昭和13年(1938) 個人蔵
珠算教育研究者による大津算盤の歴史に関する問い合わせ

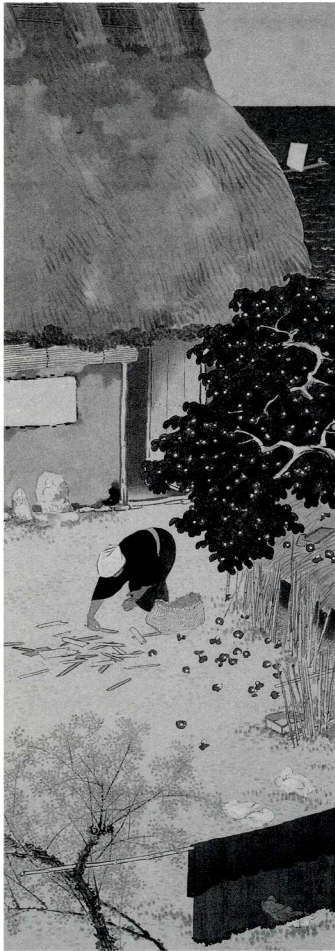
モダンと伝統のはざま 柴田晩葉と早苗会

会期：3月8日(火)～4月24日(日)

明治後期・大正の京都画壇で、竹内栖鳳たけうちせいほうと並ぶ重鎮として活躍した膳所出身の日本画家、山元春挙やまもとしゅんきよ。

彼のもとには多数の弟子が入門し、明治33年(1900)、春挙の自邸にて一般には非公開の山元画塾同好会展が開催されました。そして、3年後には、祇園の花見小路有楽館にて、22人の門弟による公開展覧会を開催。画塾も「山元社中同攻会」と名乗るようになりました(「同攻」とは、「同人攻究」の略で、攻究の字義は学問・技術を修めること)。そして、明治42年には、京都東山の^ま大雲院にて展覧会を開催。「出品画総数二十余。概おおよそ大作にして大幅屏風画の出品ありしは私塾として罕れに見る」【『美術新報』8号4巻】と報道されるほど、意欲的な活動をみせる画塾であったことがわかります。翌明治43年1月には、同攻会第十回展の祝賀会を祇園中村楼で開催、早苗会と改称しました。そして、画塾・早苗会は、最盛期の昭和初頭には90名ほどを数え、京都画壇でも屈指の勢力を誇る多士済済の画塾へと拡大することになります。

本展では、大津出身の門人・柴田晩葉しばた ばんようを中心に、早苗会画人から一部の画人を取り上げ、春挙ゆずりの円山派を近代化した写生的山水図を描く古参門人や、個性的表現を貫いた中堅門人らを紹介いたします。



流木 柴田晩葉筆 本館蔵



秋 古谷一晁筆 本館蔵

復元された4基の鴟尾（重要文化財）

鴟尾は、大棟の両端に取り付けられた古代の屋根飾りで、国内では宮殿跡、寺院跡、窯跡などからの出土例が知られています。しかし、一部の破片のみで出土するものが多く、山ノ神遺跡の4基の鴟尾のように、全体像が明確に復元できる出土例はまれです。

大津市一里山三丁目に所在する山ノ神遺跡は、7世紀前半から後半にかけて、須恵器や瓦を焼いていた窯跡が確認できる生産遺跡です。この中で、平成13年度～15年度に発掘調査をおこなった4号窯跡から、4基の鴟尾が出土しました。これらは、窯の中での焼成中に、窯の天井が崩落して埋まり、そのまま取り出されることなく放置されていたことで、その姿を残していました。窯とともに鴟尾も押し潰されて割れていましたが、その場を移動することなく埋もれていたために、ほとんどの破片が回収でき、ほぼ完全な形に復元できました。高さ約1.4mというほぼ同形同大に作られた鴟尾が、4基もそろって確認できた貴重な例です。

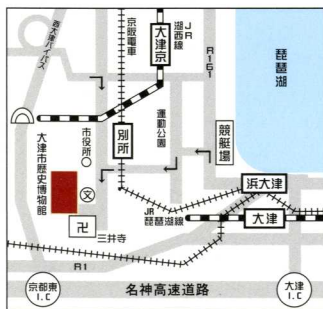
実は、4基のうち3基までは、ばらばらになっていた破片をつなぎ合わせて、その全体像を完全に復元していますが、やや残りの悪かった1基については、3つのパーツに分けたままにしています。こうすることで、復元処理をした後も鴟尾の内側や、その作り方の技法などを観察することができるからです。分割したまま保存しているということもあり、今までお披露目の機会がありませんでしたが、今回は完全復元の3基と合わせて、初めて展示します。割れている面から、側面の厚みの様子や内側の様子もよくわかりますので、この機会に4基の鴟尾を見比べてみてください。



3分割のまま復元された鴟尾 白鳳時代（7世紀後半） 大津市蔵



ご利用案内



- 交通機関
 ・京阪電鉄石山坂本線別所駅 徒歩5分
 ・JR大津駅 徒歩15分

- 駐車場 約70台（無料）

■常設展示観覧料

区分	個人	団体(15名以上)
一般	270円	210円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	130円	100円

- ◆大津市内在住の65歳以上の方、市内在住の障害者の方は無料。
- ◆ミニ企画展は、常設展観覧料でご覧いただけます。
- ◆企画展の観覧料については、その都度定めます。

※平成28年4月1日より観覧料を改定します。

■開館時間

午前9時～午後5時（展示室への入場は午後4時30分まで）

■休館日

月曜日（祝日・振替休日の場合は開館し、翌日が休館）
 祝日の翌日（土・日曜日の場合は開館）
 年末年始（12月27日～1月5日）
 その他、業務の都合により休館する場合があります。

—— 歴博カードのご案内 ——

当館主催の展覧館を自由にご観覧いただける定期観覧券です。また、当館発行の出版物や催し物の割引、様々な情報のご案内など、多くの特典を設けております。（1年間有効）

料金	一般	高大学	小中学
	2,000円	1,500円	1,000円

★詳しくは博物館までお問い合わせ下さい。



大津市歴史博物館

〒520-0037 滋賀県大津市御陵町2番2号
 TEL 077-521-2100 FAX 077-521-2666
<http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/>